

人生を拓く

(28)

山田

信 弘さん(82)
子 弘さん(81)

西町内会

父甚三郎さん(没年不詳、87歳で没)は、1929(昭和4)年、両親とともに秋田県から現美瑛町俵真布に入植。同じく秋田県から俵真布に入植していた伊藤家の長女、サキさん(平成3年、91歳で没)と1928(昭和3)年に結婚し、弘さんら8人兄弟を育てました。

3男の弘さんは、俵真布尋常小学校を卒業、すぐに大工見習いとして、当時東川にあった佐々木、中川共同土木会社に入り、その後旭川の家具屋、東川の土木会社に転職するうち、トンネル、橋りょう工事の型枠専門工に。

「土方仕事に行ったら1日600円。大工仕事なら窓枠を一日かかって作っても100円くらいだった。それが『ヤマ、トンネルの型枠やってくれや。お前大工だべ』と言われて1日千500円くらいになったんだ。『それなら行こう』とやみつきになっ

「十勝の芽登温泉の時だったかなあ。『芦別の工事で橋の型枠に行ってくれ』って言われてさ。着いたら工事やってる所どこにもないんだよ。発電所の住宅で



聞いたら『やってないよ』ってね。でも帰る金がない。汽車に乗ったところまでは良かったけれど、10円か20円足りなくてさ。乗り合わせたおばさんに持っていた玉子を『買ってくれんか』と頼み込んで、何とか旭川まで帰ってきたことあったなあ。金ないから、駅から歩いて帰ってきたよ」という記憶も懐かしい思い出。

今の住宅は、大工だった腕を生かして自分で建てたそうです。「最初は居間を造って、住みながらほかの部屋を順に造作したんだよ」。備え付け家具もすべて自作。玄関先に飾っている鶏、鳩、カモのデコイ、木製の花瓶も見事な造作。

「ほとんど家に帰れなかった」という現場泊まりの生活の連続だったそう。65歳で仕事を引退し、ようやく安息の日々を得ました。借家で18年間住んでいた木造2階建ての隣家を昨年買い取り、第二作業場兼納屋にして覚えの木工細工の腕を生かして大工仕事と木工クラフトづくりの趣味を満喫しています。

夫婦そろっての楽しみは麻雀。自宅には週2回は麻雀仲間が集まってにぎやかなひとときを楽しんでいます。

俳句

風のリズム紫陽花はメトロノーム	こばやし 星来
亡き父にぎくつと供えるラジオラス	横田 則子
青空に褒めてほしいと山法師	若田 久
くもの葉や裏表なし魔法の手	高瀬 潤
見ぬふりのしつかり見る蜥蜴かな	石澤 清宏
門番はいつ上ったかアマガエル	三島 智
新盆なのと言い淀んでいる電話口	若田 郁
風そよぎ蝦夷紫陽花の品の良さ	本田 咲
額紫陽花虹色のまま老いゆける	佐々木 りえ
カルピスのグラスカラシヤリ手まり花	山内 みゆ
今日は西明日は東とかぼちや蔓	小林 ろば
散らないで時々ねむる水葵	高橋 公花
翔平やナイターどよめくホームラン	杉山 ひろのり
雷やマリオネットの糸ぷつり	保科 なほ
シベリウス少女の視線草矢飛ぶ	徳光 吐苦
子は菓立ち孫も菓立ちて馬鈴薯の花	杉山 りつ

